

令和5年度地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）対象事業の検証について

No.	1	事業名 (計画年度)	小学校スタディアシスタント事業(令和5年度)		担当課	学校教育課
総合戦略の 位置づけ		基本目標	3 結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる地域づくり			
		施策の基本的方向	教育環境の充実			
事業概要		小学校低学年の児童一人ひとりの学習が成立するよう児童の支援や担任の授業補助を行うために、スタディアシスタント（学習補助員）を配置する。				
令和5年度 総事業費		24,118,000 円	寄附額 (件数)		5,300,000 円 (7件)	
			充当額		5,300,000 円	
主な取組		児童が安心して学校生活が送れ、学ぶ楽しさを味わえたり、望ましい学びの習慣を身につけたりできるよう、児童一人一人の学習が成立するよう児童支援をしたり、担任の授業補助を行ったりしている。具体的には、子どもに対して個別の学習支援や生活行動面の補助をしたり、学級担任と協働して配布物を配ったり提出物を整理したりする。 ＜配置基準＞ ○次の基準を超える通常学級 ・小学校第1学年：20人以上 ・小学校第2学年：25人以上 ・小学校第3学年：30人以上 ・小学校特別支援学級：7人以上（R5～拡充）				
重要業績評価 指標（KPI）		指標	学習に主体的に取り組み、学習の内容が分かると答える児童や生徒の割合			
		目標値（R6）	80.0%			
		実績値（R5）	75.7%			
事業効果 ※選択肢 ① 地方創生に非常に効果的であった ② 地方創生に相当程度効果があった ③ 地方創生に効果があった ④ 地方創生に対して効果がなかった			① 地方創生に非常に効果的であった			

事業効果の選択理由等	現在、学校には望ましい授業のあり方として「個別最適な学び」と「協働的な学び」が求められており、学級担任がより丁寧に一人一人に関わる必要がある。また低学年児童は、その発達段階から、1単位時間（45分間）集中して授業に臨むことは難しい。そのため、特に在籍人数が多い学級担任は、指導や支援に手が回らない状況がある。また、特別支援学級においては、特性を持った児童が在籍しており、複数学年にまたがった児童の学習支援、個に応じた学習課題の提示や学習状況の把握が求められ、授業者ひとりで対応することが困難な状況がある。 スタディアシスタントが配置された学級においては、困ったときにそばに寄り添ってくれる職員がいることで、子供たちが安心して授業に参加することができている。学級担任にとっても、複数の目で児童の実態を把握することができるため、より適切な指導や支援がしやすい状況になっている。このことから、安心して学校生活が送れ、学びの楽しさを味わえるようにしたり、望ましい学びの習慣を確実に身につけたりできるようにするという、本事業の趣旨が達成されていると考えられることから、「①地方創生に非常に効果的であった」とした。	
実績値を踏まえた事業の今後について	今後の方針 ※選択肢 ① 追加等更に発展させる ④ 事業の中止 ② 事業の見直し(改善) ⑤ 予定どおり事業終了 ③ 事業の継続	③事業の継続
	理由	実績値は小中学校を含めた数値となっているが、スタディアシスタントを配置している小学校に限定すれば81.7%であり、目標値を上回ることができている。引き続き、子どもたちが学ぶ楽しさを味わえるよう、誰一人取り残さない安心して学べる学校を実現するために、本事業を継続することが望ましいと考える。
外部有識者からの意見	効果の検証	スタディアシスタントの配置により、きめ細かな学級運営がされることで、子ども一人ひとりに個別最適な学びを提供することができている。これにより、子どもが学ぶ意欲や学びに対する興味関心を喚起し、将来を担う人材の育成に寄与すると考えられることから、地方創生に効果があったと評価できる。
	今後の取組方針	本事業は、児童生徒の学ぶ楽しさの向上だけでなく、教職員の負担軽減や教育の質の向上に大いに貢献していると考えられる。引き続き、あらゆる児童生徒に質の高い学びを提供するため、継続した取り組みが必要である。 なお、近年、教職員の過重労働・人材不足が社会問題になっていることから、担任の時間的・精神的負担の軽減に係る実績評価も検討されたい。